

平成 26 年度第 3 回三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進協議会議事録

- 1 開催日時 平成 26 年 11 月 20 日（木曜日）10 時 00 分から 12 時 00 分
- 2 開催場所 三重県勤労者福祉会館
- 3 内容

【報告事項】

- (1) 平成 26 年度三重県ユニバーサルデザインのまちづくりポスターコンクールについて

【審議事項】

- (1) 「第 3 次三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進計画（2015-2018）」（最終案）について

- 4 概要（開会行事、事務局からの説明は省略）

- (1) 「第 3 次三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進計画（2015-2018）」（最終案）について

○主な委員意見等

【委員意見】

「障害者差別解消法」に基づく県および市町等における職員対応要領の策定状況が目標値となっていますが、これは市町も含めて 100%ということでしょうか。

→（事務局回答）

「障害者差別解消法」において地方公共団体は努力義務となっていますが、行政にとってはやらなければならないと考えており、市町も含めて 100%です。

【委員意見】

わかりやすい情報の提供のためのガイドラインについて、次期計画の期間中もどんどんバージョンアップしていただいて、県職員の方へのわかりやすい情報の提供に関する認知をあげていっていただきたいと思います。

→（事務局回答）

次期の計画期間が始まるまでには、ガイドラインを作成して、県職員に周知したいと考えています。

【委員意見】

外国人に理解してもらうためには、平易な日本語を使うということもガイドラインに入れていただくとより効果的だと思います。また、民間への周知も図っていただきますようお願いいたします。

→（事務局回答）

今回の協議会では、ガイドライン案をお示ししたいと考えています。

【委員意見】

この計画と障がい者、高齢者などの計画の策定が同時に進められていると思いますが、そういった他の計画との整合性を図っていますか。

また、例えば駅のエレベーターなど目標値と予算の関連性ですが、計画に記載することによって、優先的に予算がつくのかどうか予算との関連性を教えていただければと思います。

→（事務局回答）

障がい者、高齢者のプランにつきましても、同じ福祉分野に関するものですので、整合はとりながらやっています。

予算については、計画の目標に書いてあることと、予算がつくことは別の話になりますが、議決いただいた計画になりますので、財政当局にも強く要望していかなくてはならないと考えています。

[2] その他

○主な委員意見等

【委員意見】

オストメイトのマークがありましたが、近所の方たちは、その意味をあまり知らなかった。オストメイトのマークはあまり認知が広がっていないと感じました。

→（事務局回答）

一定以上の大きな施設については、条例等で設置することとされていますが、小規模な施設ではそこまではできないこともあり、見ることが少ないと考えられます。

【委員意見】

学校へのUDの啓発というのは非常に効果的だと思います。特に小学生の場合は、学校からのお便りなどを通じて、保護者の方にも広がります。

→（事務局回答）

障害者差別解消法の施行も控えており、引き続き学校や事業者への啓発を進めていきたいと考えています。

【委員意見】

バス事業者としては、ユニバーサルデザイン化が十分ではないという現状があります。ノンステップバスの導入についても努力はしていますが、現在のところ2割程度であり、他府県・他都市に比べても低い現状があります。

また、多言語化というか、言語のバリアフリーという観点からも、外国人の方にはやさしい表示となっていない部分もありますので、今後はこの協議会での皆さんの意見も参考にさせていただいて、そういうことを念頭に置きまして、事業に活かしていきたいと考えています。

ベビーカーでの乗車につきましても、昔なら、ベビーカーを折りたたむなどの制約をつけておりましたが、そのまま乗っていただけるように、子育て中の方も気がねなく公共交通機関をご利用いただけるように、変えていきたいと考えています。

新たなノンステップバスを買ったり、設備を整えたりするには費用がかかります。しかし、社員の教育、ソフト面の教育については、それほど費用がかからないので、また、バリアフリーやユニバーサルデザインの教育については、まだ不十分な点もあると思いますので、社員の意識の向上を図りながら、ソフト面を強化して、乗客の皆さまが安心して、気持よくご乗車いただけるような、移動しやすい環境づくりを進めていきたいと考えております。

【委員意見】

折角、おもいやり駐車場の区画を設けていただいているのに区画の前にコーンを置いてあったりするところが結構あるようです。警備員の方が、車が来ればそれはずすと言うならいいのですが、そのような施設もあるようですので、協力いただいている事業者への啓発も必要かと思えます。

【委員意見】

ポスターコンクールなどでおもいやり駐車場の啓発を行ってきているが、違ったテーマでの啓発も検討をお願いします。

【委員意見】

マタニティマーク、ベビーカーマークについて具体的な啓発の方法はどのようなものを考えていますか。

→〔事務局回答〕

この2年間はおもいやり駐車場の啓発を中心に進めてきたが、今後どこに力をいれるか方向性は明確でないが、テーマをいろいろ選んで啓発を進めていきます。

また、マタニティマーク、ベビーカーマークは子育て世代でない方への啓発が必要と考えられます。

【委員意見】

「子どもが乗っていますよ」というシールを貼っている人が多い。民間の取組があるので、ユニバーサルデザインのまちづくりなどの中で、広めていただければありがたいと思います。

(以上)